

令和8年度第1回山形市男女共同参画審議会会議録

日 時 令和8年6月11日（木）午後3時～午後4時30分

場 所 山形市男女共同参画センター 5階視聴覚室

I 出席者

- 1 委員（13名） 柿崎会長、金森委員、上條委員、中嶋委員、中川委員、中森委員、高須賀委員
菅野委員、塩野委員、長岡委員、渡邊委員、畔上委員、我妻委員
※欠席委員（2名） 田中副会長、中村委員
- 2 幹事（2名） 奥山企画調整部長、遠藤男女共同参画センター所長
- 3 書記（4名） 風間副所長、大石係長、後藤主査、増川主査
- 4 運営事務員（2名） 沼沢事務員、佐藤事務員

II 傍聴者

- 1 一般傍聴者 0名
- 2 傍聴した記者 0名

III 会 議

- 1 開会 大石係長
- 2 委嘱状交付 佐藤市長
- 3 市長あいさつ 佐藤市長
- 4 会長あいさつ 柿崎会長

5 第5次山形市男女共同参画計画

「いきいき山形男女共同参画プラン」策定の諮問 佐藤市長より井上会長へ諮問書を提出

6 報告

（1）令和7年度男女共同参画事業報告について

事務局より資料1に基づいて説明

—質疑—

（委員）ファースト市民企画講座の実施について、令和6年度よりも件数が減少したと思うが、支援の在り方を見直したのか。これまで「Girl up!」や「Women's Campus 山形」など外部の事業者等との共同事業に関わった方で、これからの活躍を目指している方への支援に移行していると感じているがどうか。

資料（4）山形連携中枢都市圏連携事業による広域活用の①ファースト利用状況について、前年度との比較ができるような表示にしてはどうか。令和8年度事業報告のときから変更いただきたい。

また、「Women's Campus 山形 4年度～6年度参加者への継続支援」について、皆さんの活動がとても良い形になっていると感じる。この活動をホームページや SNS を利用して、若い方々が頑張っているということを市民にもっと広めていくべきではないか。

（事務局）ファースト市民企画講座については、令和6年度も2団体だった。これまで同じ団体の申込みが続いていたこともあり、男女共同参画の実現を目指し、市民の皆様が自主的に活動することが浸透してきたと捉え、市民企画講座については、今年度から事業廃止とした。また、委員の

ご質問のとおり、継続支援の方に注力していることもあり、市民企画講座については、長年に渡りこの事業を実施してきたことや申込団体の減少ということからも、廃止についてご理解いただきたい。

山形連携中枢都市圏連携事業の表の記載については、来年度から、前年度と比較する形で、わかりやすく記載していく。

Women's Campus 山形4年度～6年度参加者への継続支援については、これまでもホームページ等に掲載していたが、皆様に広く届くよう、周知方法を検討していく。

(委員) 資料(4) 山形連携中枢都市圏連携事業による広域活用の中で、講座受講者数を見ると、以前と比べてとても増えており、とても喜ばしく感じる。そこで、山形市に来ていただくだけでなく、他の市町での講座に気軽に参加できるような仕組みづくりをしていただきたい。

(事務局) 連携中枢都市圏の担当者によるワーキンググループで、情報提供を行いながら、他市町の新しい情報も収集していきたい。

(委員) 市の審議会等委員への女性の参画推進について、令和3年度から令和8年度まで女性の比率があまり変わらないように感じるが、審議会の総数が増えているにもかかわらず比率が下がらないのは、積極的に女性にお声がけをさせていただいている成果だと感じている。

また、(3) 男女共同参画意識の啓発の②小・中学生用男女共同参画資料の配布について、学校の活用状況の中で「きらりかがやいてのみで授業を行った」という学校もあり素晴らしいと感じた。

(委員) 自主企画講座について、市外からの参加人数は把握しているか。事業報告に市外からの参加人数を入れた方が良いのではないか。この数値を入れることによって、山形市が連携中枢都市圏で担う役割が明確になるのではないか。

(事務局) 市外からの参加人数は把握しているので、今後掲載していく。

(委員) 市民活動の支援事業や相談事業、DV相談など、全体的に利用者数がすごく増えたように感じる。これは、ファーストからの情報提供が届いているということなのか、それとも、生理用品の配布状況などから、生活が困窮している方が増えているようにも感じるが、そうしたことに起因しているのか。何が要因なのか把握しているか伺いたい。

(事務局) 相談については、様々な周知を行ったことによるものと考えている。次期男女共同参画プランの骨子案でも触れるが、相談窓口の認知度が上昇しているという成果も出ている。生理用品の無償配布の増加についても、広報やまがたに年2回掲載する等周知しているので、情報が届いた結果だと考えている。

7 協議

(1) 令和8年度事業計画(案)について

事務局より資料2に基づいて説明

—質疑—

(委員) 第4次プランの評価指数の16 DV被害を相談した人の割合について、目標値を数字で置くことは良いと思うが、この指標については、数値ではなく県のように「減少させる」という表現の方が良いのではないか。

(事務局) 前プランである第3次プランでは、50%以上と目標値を掲げており、達成していなかったため、現行の第4次プランで50%という数値になった経過がある。しかしながら、新た

なプランにおいては、どのような指標にすべきか、皆様からお聞きした上で、何がふさわしいのか検討していきたいと考えている。

(委員) 今年度で終了予定の男女共同参画に関する一行詩について、これまで作品の展示等による意識啓発を行ってきた経過があるが、男女共同参画の啓発のため、今年度分の作品については来年度もこれまで同様に展示等を行った方が良いのではないか。

(事務局) 今後検討していく。

(委員) DV防止及び支援対策と困難な問題を抱える女性への支援は、これまでどおり取り組んでいくという認識でよろしいか。

(事務局) これまで同様に取り組んでいく。

(委員) 先ほどの相談件数の増加については、県・市ともに相談窓口の周知に取り組んでいることも要因かと思っている。

窓口の周知については、山形市でも、女性相談支援員が活躍いただいているが、ぜひそういったところの周知をさらに進めていただきたい。また、関係各課の中で女性相談の窓口を知らない方もいるように感じることもある。実際の支援となると、県・市が連携を取る必要が生じるケースも大変多いので、外向けだけでなく、庁内でぜひ職員向けの周知を更に進めていただければと思っている。

(事務局) こども家庭支援課の女性相談支援員については、職員でも関わった経験があるとわかるが、「わかる人はわかる、わからない人はわからない」という状況は改善すべきだと思うので、庁内に周知していきたい。併せて、相談窓口についてもしっかり周知していきたい。

(委員) 山形市女性人材育成事業「山形市女性活躍推進に係る伴走型支援業務」について、どのぐらいの規模の企業を想定しているのか伺いたい。

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定等について事業者の方に周知しているが、そういったノウハウがない中小企業や小規模事業所においては、状況把握や課題分析まで行うことが難しい状況である。ぜひそのような事業所に、課題や分析のノウハウをお示しいただくと、この事業の成果に繋がるのではないかと思う。

(事務局) 募集の事業所については、女性活躍推進法に基づく女性管理職比率等の公表義務の対象である従業員数101人以上の企業を想定している。

中小企業の方においても、様々な課題をお持ちだと認識しているが、まずは101人以上の企業を対象に、伴走支援していきたい。

(委員) 小中学校向け出前講座「いのちの学習」については、10校という実施校数に限りがある中ではあるが、いのちについて学ぶということは、男女のDV関係の学びにもつながり、そのことについてきちんと学んだ子供が育つということからとても良い取組だと感じている。

委員には校長先生もいらっしゃるので、事業を実施する上で、良い点や難しい点等あればお聞かせいただきたい。

また、小中学生用男女共同参画学習資料「きらりかがやいて」について、約3割の学校が授業で取り上げていただいているということで、改善点があればお聞かせいただきたい。

(委員) 出前講座については、子供たち自身に考えさせるところがたくさんありとても良い内容だと思う。ただ、やはり年間の実施校数が決まっているので、次に回ってくるまでに時間がかかるため、何か方策はないかと感じている。

(委員) 中学校でも、人権教育や道徳、SNSの使い方で、専門の大学の先生などに講師を依頼して

いる。人権やお互いに認め合うことについては、授業や生徒会などさまざまな形で学習しているが、やはり教員にも限界があるので、専門性のある方に来ていただけるとありがたいと思っている。

(事務局) 小中学校の出前講座において、申し込みが多く順番が回ってこないということについては、予算の都合というよりも講師を引き受けていただける先生が少ないという実情がある。現在、助産師の先生方を中心に4名の講師で実施しているが、その他に、講師の情報をお持ちでしたらぜひ教えていただきたい。新たな講師として、市の母子保健課の職員などでも対応できないか検討していきたい。

(委員) 情報紙ファーストについて、今年からデジタル媒体へ移行されるということだが、時代の流れを受け、とてもよい取組みだと期待している。一方で、デジタル媒体の場合、興味がある方に集中して届き、それ以外の方には届きにくい。紙媒体とのミックス、例えば紙媒体は、デジタルに投稿したもののインデックス的な役割をしていただくなどしてはどうか。

また、SNSなどを投稿する方は、センター職員を想定していると思うが、公民連携の女性人材育成事業もなさっていらっしゃいますので、例えば、そういう方と一緒にスキルアップも含めて行い、そういった方向のコミュニティーを作れば、より楽しい発信ができるのではないかな。

(事務局) 情報紙ファーストについては、印刷は無くなってしまいが、皆様に広くお伝えできるよう、簡易版のような形で作成し、配布や窓口設置を行うなど検討していきたい。

SNSに関しては、職員のスキルに限界があるのは確かである。今年度の自主企画講座でSNS活用セミナーを予定しているため、職員もこちらのセミナーを活用しながら、女性人材育成事業の参加者の方でこの分野が得意な方もいらっしゃいますのでご協力をいただく等検討していきたい。

(委員) 女性人材育成事業 Women's Campus 山形の参加者のご意見は大切だと思っている。昨年7年度も市の継続支援があったが、他にこうした方がよい等、1期生であった委員に、何か要望はないか伺いたい。

(委員) Women's Campus の1期生で、その後はメンターとして支援に携わっている。今年度の計画に、メンバーで話し合ったところがかかなり反映されていると感じている。

昨年の女性リーダーの育成事業において、実際私が入ったグループの中で、ここで学んでも企業に戻った時にどうしたらいいかわからない、企業側でも課題があったとしてもどこに相談していいかわからないというような課題があることがわかった。そこで、他のメンターと講師と相談し、まずモデルケースの1つを作っていってはどうかということをご提案させていただいた。これが今年度の新規事業(女性活躍推進に係る伴走型支援業務)という形になったのではないかと認識している。

また、若年女性の地元定着にも携わらせていただいたが、女子高校生対象の事業にもしっかりと反映されている。

しかし、実際は、セミナーなどの開催だけでなく、企業側にどう落とし込むかが課題であり、伴走型支援事業には大いに期待している。今回支援対象となった企業を、モデルケースとして広く周知していただきたい。

(事務局) 皆様からいただいたご意見を、事業に反映させていただいている。

伴走型支援事業については、広く皆様に周知できるよう、企業の方と一緒に広報しながら進

めていきたいと考えている。

(委 員) SNSについて、閲覧者やフォロワーが増えないという課題があるが、山形市の消防本部の SNSのように、面白さも加えながら必要な情報を届けることはできないか。

(事務局) どちらかというと男女共同参画については動きのある SNSでの発信が難しい。効果的な発信となるようぜひ皆様にご助言をいただきながら、なるべく多く発信していきたい。

(2) 次期山形市男女共同参画プラン骨子案について

事務局より資料3に基づいて説明

—質疑—

(委 員) 男女共同参画プランについて、第5次においても「いきいき男女共同参画プラン」という名称は変わらないのか。

(事務局) 同じ名称で考えている。

(委 員) 令和7年度における第4次プランの進捗状況の評価指標19「市内中学校・高等学校における女子生徒の制服選択(スラックス)」について、96.4%という数字からほぼ達成と判断して、次のプランでは別に考えた方がよいのではないか。市内の中学校でも、ジェンダーレス制服を導入しているところもある。例えば、中学校では、従来からある黒い学ランのところがほとんどだが、その学ランが着づらい男子生徒もいる。上着は男女どちらでも着られるようなブレザー型、下は男女ともスラックス・スカートが選べるというような制服を導入している学校の調査をしたほうがよいのではないか。

また、指標6の市の審議会等委員に占める女性の割合について、令和2年から横ばいで全然増えていないと感じる。例えば、PTAなどの活動では、役員のほとんどが父親である。現在は、フルタイムで働く母親が多くなり、社会の女性進出が進んでいるが、PTA活動のようところまで手が回らないといった女性の意見もある。計画の中に、困難な状況を抱える女性の支援というものもあるが、社会進出が進んだがゆえに疲弊している女性がいて、そして、この審議会等の委員の数値が上がらない要因としてそのような状況もつながっているのではないかと考えている。家庭のことで精一杯で、審議会などの役回りについて、女性ができない状況になっているのではないかと感じている。

なぜ進まないかというようなところを、何らかの方法で調べる方法があれば、調べていただきたい。こういう物事を決める会議で、女性委員の人数が増えていかないといけないと考えている。

(事務局) 指標19については、市内の中学校全てで選択制制服を導入していることもあるので、次期プランでの指標にはしない方向で考えている。

また、審議会の改選時期に、各担当課が各団体へ委員推薦を依頼する際に、女性の委員になれる方の推薦をお願いしているが、専門的な分野においては、男性が推薦されることがあるという話も聞いている。

各審議会の中には、極端に少ない、もしくはゼロというところもあるため、担当課に聞き取りを行っているが、まだ数字には表せていない状況だが、庁内における取組も継続したい。

(委 員) 次期男女共同参画プランについては、この審議会で提案されるということによろしいか。

(事務局) 次回の第2回審議会において素案をお諮りしたい。

(委 員) 指標7・8の女性人材バンク登録者数と年間活用数の目標値と現状値について乖離がある。

現在のプランの策定時よりも登録者数が下がっており、ここから伸ばすのは非常に大変な目標値だと思うが、具体的な方策はあるか。

(事務局) 女性人材バンクの登録については、3年に1度の更新となっているが、活躍の場がない、年齢的な問題等で更新しない方もいる。新たな登録者を増やすため、自主企画講座等の講師の先生や女性人材育成事業にご参加の方に登録していただけないかお声がけしている。今後何ができるか検討していきたい。

(委員) 山形市の体系図に防災の言葉が入っていない。何かの形で体系図に防災について入れることはできないか。

(事務局) 県の計画に防災という言葉があり、骨子案においても検討したところだが、基本目標Ⅱ-2「家庭や地域における男共同参画の定着」に防災に関する具体的な施策が繋がっていくと考えている。

(委員) 盛り込んでいくということか。

(事務局) そのように考えている。

(委員) 次期プランの「目指すまちの姿」に「性別にかかわらず誰もが生き生きと活躍し」という表現があるが、この「性別にかかわらず」という表現の意図について伺いたい。

このプランの基本になる市の条例や基本計画等から考えられたと思うが、この「性別にかかわらず」からつながっている「誰もが」という言葉は、男女だけでなく、性別のグラデーションにある方、子ども、国籍、身分、全てを含める言葉であると思うし、「性別にかかわらず」という表現が無いとしても、「誰もが」という表現が含まれるものは多様で大きいものであると思う。表現について慎重にご検討いただきたい。

(事務局) 「性別にかかわらず」という表現については、山形市の発展計画に「性別にかかわらず、多様な人材が活躍し、多様な価値感が尊重されるまちを目指しましょう」という表現があることから引用した経過があるが、「誰もが」という言葉は、発展計画では出ていない。しかしながら、「誰もが」という表現はご意見の通りだと思うので、「性別にかかわらず」という表現を市民の皆様がどう思うかを念頭に、慎重に協議していきたい。

(委員) ぜひ検討してください。

(3) 山形市女性人材育成事業「山形市女性活躍推進プロジェクト支援」に係る支援団体の審査について
事務局より資料4に基づいて説明

一質疑無し一

3団体採択

6 その他

委員より情報提供あり

(女性活躍推進法の改正、共育プロジェクト、ハラスメント対策の強化について)

7 閉会

大石係長